

就職活動における IT 業界志望から非 IT 業界志望への意識変化

0832035 大堀晴香

指導教員：山崎治 准教授

1. 背景

近年では、IT業界への注目度が上がってきている。それに伴い、情報系学部・学科が多く設立され、在学する学生が就職活動を行う初期段階では IT 業界を志望する生徒が非常に多いように思われる。

IT 業界就職者は、厚生労働省より、入職率・離職率 12.4% と離職率が高いことが報告されており、転職・退職原因として、業界への認識違いが挙げられている。学生の中には、就職活動を行う中で IT 業界から別の業界へと志望業種を変更する学生も少なくない。また、安易に IT 業界志望し、将来的に離職していく学生も見られる。

情報系学部・学科の大学生において、就職活動時のキャリア選択がどのようにおこなわれ、またそれにどのような事柄が影響しているのかを知ることで、今後の就職活動支援に役立つのではないかと考えた。

2. 目的

本研究では、就職活動中に業界変更をする際、どのような要因が関係しているのかなど意識変化の理由を調査・検討し、IT 業界志望者と非 IT 業界志望者、両志望変更者で要因の違いを比較することで、今後の進路指導に役立てる目的とする。

面接法で調査を行い、参加者をあらかじめ定義した就職活動のタイプごとにわけ、志望理由や業界変更理由を調査する。「何を基準に就職活動を行ったか」

「なぜ業界変更に至ったか」「友人や親の意見を重視したか」などについて尋ね、就職活動に影響した要因を明らかにしていく。

3. 分析手法

本研究では、分析手法として SCAT(大谷 2008)を使用する。SCAT とは、マトリクスの中にセグメント化したデータを記述し、それぞれに、〈1〉データの中の着目すべき語句 〈2〉それを言いかえるためのデータ外の語句 〈3〉それを説明するための語句 〈4〉そこから浮き上がるテーマ・構成概念の順にコードを考えて付していく 4 ステップのコーディングと、そのテーマ・構成概念を紡いでストーリーラインを記述し、そこから理論を記述する分析手法である。

4. インタビュー調査

本調査では、内定者に対して、就職活動についてインタビューした。SCAT を利用し分析を行い、業種・職種の志望に影響を与えた要因について検討した。

4.1 方法

対象者：すでに内定を決めている情報系学科大学 4 年生 8 名（男性 6 名／女性 2 名）

事前調査：内定先や就職活動を行った業種などについて問う事前調査書を使用し、志望業種の変遷に基づき対象者を 4 つのタイプ（各タイプ 2 名ずつ）に分けた。また、予備調査および先行研究に基づき、志望に影響を与えた事柄を掘り下げられるよう、5 つ

の質問項目に対する回答を求めた。

手続き： インタビューは 1 対 1 の半構造化面接で行った。事前調査書の質問項目に沿って業種の志望変更を行ったタイミング、基準にした条件などを質問し、自由に答えを求めた。対象者の了解を得てインタビュー内容をボイスレコーダーに録音した。1 回のインタビュー時間は 10~15 分程度であった。

4.2 分析結果

インタビューの音声データをもとに、SCAT を使用し分析を行った。各対象者のストーリーラインを作成し、業種・職種志望の決定に影響を与えた要因について抽出した。

表 1 に、分析結果を表にしたもの一部を示す。この表では、IT 業界志望から非 IT 業界への内定が決まった対象者 2 名と、IT 業界志望のまま内定が決まった対象者 2 名の結果が示されている。

表 1. SCAT 分析まとめ

影響した要因	IT→非IT		IT→IT	
	1-A	1-B	4-A	4-B
専門(情報→情報)	○	○	○	○
他者	親・バイト先	親	親・就活関連	親・友人
(親・友人等)	内定先	内定先	意欲・業種	意欲
関心	無し	志望業種	内定先	内定先
(趣味・興味等)			志望業種	志望業種
自分の強み	無し	成績	無し	成績
(成績・特技等)		志望業種		志望業種

赤い文字で示されているものは、要因がネガティブに影響しているものである。

表 1 から読み取れる傾向として、IT→非 IT・IT→IT ともに【専門→専門という考えが影響している】、【親の意見、影響を受けている】、IT→非 IT では、【他者の意見が内定先に直接影響している】、【成績がネガティブに影響している】、【内定先への関心がない】、IT→IT では、【他者の意見がネガティブに影響している事例がある】、【成績がポジティブに影響している】、【内定先に関心がある】と、相対する意識が見られた。

5. まとめ

全体的な分析の結果、業種志望の変化があった対象者には【専門学科なので情報系へ行かなければという思いを本人または周囲がもっている】【成績がネガティブに影響している】という共通点が見られた。このような特徴を考慮して、進路指導が行われることが期待される。

参考文献

大谷 (2008) SCAT: Steps for Coding and Theorization - 明示的手手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法 -. 感性工学. Vol.10 No.3 155-160